みずほマーケット・トピック（2016 年 7 月 29 日）

週末版

内容　1．為替相場の動向　　2．来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3．本日のトピック」はお休みさせて頂きます。『中期為替相場見通し』は 8 月 1 日発行予定です。

1．為替相場の動向（関連レポート：「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」）

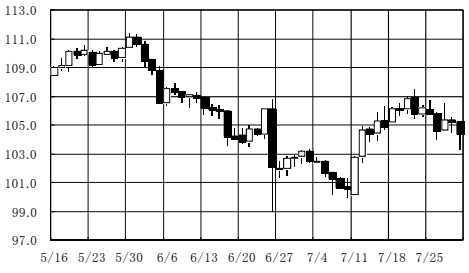
・今週のドル/円相場は軟調な展開。週初25日、106円台前半でオープンしたドル/円相場はドル買い優勢地合いに一時週高値となる 106.74 円まで上昇したが、NY ダウ平均や原油価格の下落を背景にリスク回避姿勢が強まると105円台後半まで下落した。26日にかけてもリスク回避姿勢が継続する中、日経平均株価の軟調推移や米長期金利の低下も相俟って、ドル/円は104円ちょうどまで値を下げたが、米6月新築住宅販売の良好な結果などを背景に 104 円台後半まで上昇した。27 日は、日銀の追加緩和期待が高まる中、ドル/円は 105 円台前半までじりじりと上昇。その後、政府の経済対策が 27 兆円規模に上るとの報道や財務省が50年債の発行を検討しているとの報道が伝わるとドル/円は106円台半ばまで急騰した。だが、50年債発行報道を財務省が否定したことなどを受けて105円台前半まで反落。その後のFOMCでは景気認識の上方修正などが好感される中、ドル/円は一時106円台に乗せたものの、直ぐに円買い優勢となると105円台前半まで反落。28 日、ドル/円は 104 円台半ばを挟んで底堅く推移するも、追加緩和期待が燻る中で下値は限定的となり、直ぐに105円台半ばまで値を戻した。本日のドル/円は、朝方には一時週安値となる103.30円まで急落する場面も見られたが、日銀への追加緩和期待が燻る状況下、104 円台前半で推移している。

・今週のユーロ相場は週後半に上昇する展開。週初 25 日、1.09 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週安値となる1.0952をつけるも、独7月IFO景況感指数の良好な結果や欧州株の堅調推移を背景に、1.09台後半まで上昇。26 日にかけてユーロ/ドルは 1.10 台前半まで上昇したが、ユーロ/ポンドが下落する動きに 1.09 台後半まで連れ安となった。27 日は、FOMC の結果を受けたドル買いにユーロ/ドルは 1.09 台半ば近くまで下落するも、その後ドル売り優勢地合いになると、一気に 1.10 台後半まで急伸。その後、28 日にかけてユーロ/ドルは一時週高値となる 1.1121 まで上昇したが、ドル買い優勢地合いになると 1.10 台後半まで反落し、買いは続かなかった。本日にかけてもユーロ/ドルは同水準で底堅い値動きが継続している。

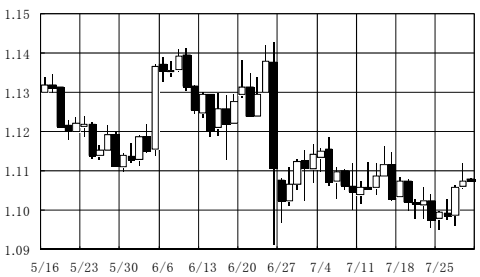
今週のおもな金融市場動向（出所：ブルームバーグ、みずほ銀行）

		前週末	今週			
		7/22(Fri)	7/25(Mon)	7/26(Tue)	7/27(Wed)	7/28(Thu)
ドル/円	東京9:00	105.79	106.30	105.61	104.83	104.91
	High	106.40	106.74	105.89	106.54	105.50
	Low	105.57	105.74	104.00	104.67	104.48
	NY 17:00	106.24	105.81	104.65	105.41	105.28
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1033	1.0970	1.0989	1.0987	1.1072
	High	1.1041	1.0998	1.1030	1.1065	1.1121
	Low	1.0956	1.0952	1.0978	1.0962	1.1052
	NY 17:00	1.0977	1.0997	1.0987	1.1058	1.1076
ユーロ/円	東京9:00	116.62	116.58	116.03	115.18	116.19
	High	117.26	116.97	116.30	117.15	116.83
	Low	116.25	116.24	114.47	115.03	115.83
	NY 17:00	116.50	116.28	114.95	116.56	116.59
日経平均株価		16,627.25	16,620.29	16,383.04	16,664.82	16,476.84
TOPIX		1,327.51	1,325.36	1,306.94	1,321.67	1,307.00
NYダウ工業株30種平均		18,570.85	18,493.06	18,473.75	18,472.17	18,456.35
NASDAQ		5,100.16	5,097.63	5,110.05	5,139.81	5,154.98
日本10年債		-0.22%	-0.24%	-0.25%	-0.29%	-0.27%
米国10年債		1.57%	1.57%	1.56%	1.50%	1.50%
原油価格(WTI)		44.19	43.13	42.92	41.92	41.14
金(NY)		1,331.50	1,327.20	1,328.30	1,334.50	1,341.20

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

・米国では、8 月 5 日(金)に 7 月雇用統計が発表される。前回 6 月雇用統計では、非農業部門雇用者数が前月比+28.7 万人と大幅に拡大し、市場の一部では米利上げ観測が再び高まっている。7 月については、調査週にあたる 7 月第 3 週(12 日を含む週)の新規失業保険申請数が、趨勢を示す 4 週移動平均で 25.8 万人と6 月(26.7 万人)から僅かながら減少している。そうしたこともあって、市場では 7 月非農業部門雇用者数が前月比+18.0 万人と、6 月から縮小するものの堅調な結果になると予想されている。市場予想通りとなった場合には、米利上げ観測が更に高まる公算が大きい。また、2 日(火)に6 月個人消費支出(PCE)コアデフレータが発表される。PCE コアデフレータは FRB が物価目標(+2%)を達成したかを判断するに当たって最も重視している。足許では 5 月にかけて 3 か月連続で前年比の伸び率が横這いとなっているが、6 月はインフレ基調に改善の動きが見られるかが注目される。このほか、1 日(月)に 7 月 ISM 製造業景気指数、3 日(水)に 7 月 ISM 非製造業景気指数、7 月 ADP 雇用統計、5 日(金)に 6 月貿易収支が発表される。

・欧州では、8 月 4 日(木)に英中銀(BOE)の金融政策委員会が開催される。既に一部では 7 月の経済指標が発表されており、英国のEU離脱(Brexit)決定の経済に対する影響が確認できる。もっとも、今回の金融政策委員会までに入手可能なデータは数が限られているほか、Brexit に向けた EU との交渉は 2 年以上の時間を要する見込みで、英国経済への影響についても長期的な観点からの評価が必要になるだろう。そのため、足許のデータを理由にBOE が利下げに踏み切るとは考えにくい。もっとも、資産購入額上限の引き上げや購入可能資産の多様化など、他の手段による景気下支え策が実施される可能性はあるだろう。また、同時に発表される四半期インフレ報告書に、今後の金融政策の方針が示されかどうかも注目される。このほか経済指標では、3 日(水)にユーロ圏 6 月小売売上高、ユーロ圏 7 月サービス業 PMI、英 7 月サービス業 PMI などが発表される。

・本邦では、8 月 3 日(水)に日銀金融政策決定会合議事要旨(6 月 15～16 日開催分)、5 日(金)に6 月毎月勤労統計、6 月景気動向指数(速報)、6 月消費活動指数が発表される。

	本　　邦	海　　外
7 月 29 日(金)	――――――――――	・米 4～6 月期 GDP(1 次速報値) ・米 4～6 月期雇用コスト ・米 7 月シカゴ購買部協会景気指数 ・米 7 月ミシガン大学消費者マインド(確報) ・ユーロ圏 6 月失業率 ・ユーロ圏 7 月消費者物価(速報値) ・ユーロ圏 4～6 月期 GDP(速報値)
8 月 1 日(月)	・7 月自動車販売台数	・7 月 ISM 製造業景気指数 ・6 月建設支出
2 日(火)	・7 月マネタリーベース	・米 6 月個人所得・消費
3 日(水)	・日銀金融政策決定会合議事要旨 (6 月 15～16 日開催分)	・米 7 月 ADP 雇用統計　・米 7 月 ISM 非製造業景気指数 ・ユーロ圏 6 月小売売上高　・ユーロ圏 7 月サービス業 PMI ・英 7 月サービス業 PMI
4 日(木)	――――――――――	・米 6 月製造業新規受注 ・米 6 月耐久財受注(確報)
5 日(金)	・6 月景気動向指数(速報) ・6 月毎月勤労統計 ・6 月消費活動指数	・米 7 月雇用統計　・米 6 月貿易収支 ・米 6 月消費者信用残高 ・独 6 月製造業受注 ・独 6 月鉱工業生産

【当面の主要行事日程(2016 年 8 月～)】

ECB 理事会(9 月 8 日、10 月 20 日、12 月 8 日)
米 FOMC(9 月 20～21 日、11 月 1～2 日、12 月 13～14 日)
日銀金融政策決定会合(9 月 20～21 日、10 月 31～11 月 1 日、12 月 19～20 日)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌　大輔（TEL：03-3242-7065）
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

経済指標カレンダー（2016年8月）

月	火	水	木	金	週末
1 日本　自動車販売台数（7月） 米国　ISM製造業景気指数（7月） 米国　建設支出（6月）	**2** 日本　マネタリーベース（7月） 米国　個人所得・消費（6月）	**3** 日本　日銀金融政策決定会合議事要旨（6月15～16日開催分） 米国　ADP雇用統計（7月） 米国　ISM非製造業新規受注（7月）	**4** 米国　製造業新規受注（6月）	**5** 日本　景気動向指数（速報、6月） 日本　毎月勤労統計（6月） 米国　雇用統計（6月） 米国　貿易収支（6月） 米国　消費者信用残高（6月） ドイツ　製造業受注（6月） ドイツ　鉱工業生産（6月）	
8 日本　国際収支（6月） 日本　貸出・預金動向（7月） 日本　景気ウォッチャー調査（7月） 日本　企業倒産件数（7月） 日本　金融政策決定会合による主な意見（7月28～29日開催分） 米国　労働市場情勢指数（7月）	**9** 日本　マネーストック（7月） 米国　卸売売上高（6月） 米国　労働生産性（速報、4～6月期） ドイツ　貿易収支（6月）	**10** 日本　機械受注（6月） 日本　企業物価（7月） 日本　第三次産業活動指数6月） 米国　財政収支（7月）	**11** 日本　山の日	**12** 米国　小売売上高（7月） 米国　生産者物価（7月） 米国　企業在庫（6月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（8月） ユーロ圏　鉱工業生産（6月） ユーロ圏　GDP(速報、4～6月期） ドイツ　GDP(速報、4～6月期）	
15 日本　GDP(速報、4～6月期） 日本　鉱工業生産（確報、6月） 米国　ニューヨーク連銀製造業景気指数（8月） 米国　TICレポート（対内対外証券投資、6月）	**16** 米国　住宅着工（7月） 米国　消費者物価（7月） 米国　鉱工業生産（7月） ユーロ圏　貿易収支（6月） ドイツ　ZEW景況指数（8月）	**17** 米国　FOMC議事要旨(7月26～27日開催分）	**18** 日本　貿易収支（7月） 米国　景気先行指数（7月） 米国　フィラデルフィア連銀製造業景気指数（8月） ユーロ圏　経常収支（6月） ユーロ圏　消費者物価（確報値、7月）	**19**	
22	**23** 米国　新築住宅販売（7月）	**24** 日本　景気動向指数（確報、6月） 米国　中古住宅販売（7月） ユーロ圏　製造業PMI、サービス業PMI（8月） ドイツ　GDP(確報、4～6月期）	**25** 日本　企業向けサービス価格（7月） 米国　耐久財受注（7月） 米国　経済シンポジウム（ジャクソンホール、～27日） ドイツ　IFO企業景況指数（8月）	**26** 日本　全国消費者物価（7月） 日本　東京都区部消費者物価（8月） 米国　GDP(第2次速報、4～6月期） 米国　ミシガン大学消費者マインド（確報、8月）	
29 米国　個人所得・消費（7月）	**30** 日本　労働力調査（7月） 日本　家計調査（7月） 日本　商業販売統計（7月） 米国　S&P/ケース・シラー住宅価格（6月） 米国　消費者信頼感指数（8月）	**31** 日本　鉱工業生産（速報、7月） 日本　新設住宅着工（7月） 米国　ADP雇用統計（8月） 米国　シカゴ購買部協会景気指数（8月） ユーロ圏　失業率（7月）			

（注）*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
（資料）ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー（2016年9月）

月	火	水	木	金	週末
			1 日本　法人企業統計（4～6月期） 日本　自動車販売台数（8月） 米国　労働生産性（確報、4～6月期） 米国　建設支出（7月） 米国　ISM製造業景気指数（8月）	**2** 日本　マネタリーベース（8月） 米国　雇用統計（8月） 米国　貿易収支（7月） 米国　製造業新規受注（7月）	**4** G20(浙江省杭州・サミット、～5日）
5 日本　毎月勤労統計（7月）	**6** 米国　労働市場情勢指数（8月） 米国　ISM非製造業景気指数（8月） ユーロ圏　GDP(確報、4～6月期） ドイツ　製造業受注（7月）	**7** 日本　景気動向指数（速報、7月） 米国　ベージュブック ドイツ　鉱工業生産（7月）	**8** 日本　国際収支（7月） 日本　貿易収支（7月） 日本　GDP(確報、4～6月期） 日本　貸出・預金動向（8月） 日本　景気ウォッチャー調査（8月） 日本　*企業倒産件数（8月） 米国　消費者信用残高（7月） ユーロ圏　ECB理事会(フランクフルト)	**9** 日本　マネーストック（8月） 日本　第三次産業活動指数（7月） 米国　卸売売上高（7月） ドイツ　貿易収支（7月）	
12 日本　機械受注（7月） 日本　企業物価（8月）	**13** 日本　法人企業景気予測調査（7～9月期） 米国　財政収支（8月） ドイツ　ZEW景況指数（9月）	**14** 日本　鉱工業生産（確報、7月） ユーロ圏　鉱工業生産（7月）	**15** 米国　経常収支（4～6月期） 米国　小売売上高（8月） 米国　フィラデルフィア連銀製造業景気指数（9月） 米国　生産者物価（8月） 米国　ニューヨーク連銀製造業景気指数（9月） 米国　鉱工業生産（8月） 米国　企業在庫（7月） ユーロ圏　消費者物価（確報、8月） ユーロ圏　貿易収支（7月）	**16** 米国　消費者物価（8月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（速報、9月） 米国　TICレポート（対内対外証券投資、7月） ユーロ圏　EU首脳会議（ブラチスラバ（スロバキア））	
19 日本　敬老の日 ユーロ圏　経常収支（7月）	**20** 日本　金融政策決定会合（～21日） 米国　FOMC（～21日） 米国　住宅着工（8月）	**21** 日本　貿易収支（8月）	**22** 日本　秋分の日 米国　中古住宅販売（8月） 米国　景気先行指数（8月）	**23** ユーロ圏　製造業PMI、サービス業PMI（9月）	
26 日本　景気動向指数（確報、7月） 米国　中古住宅販売（8月） 米国　新築住宅販売（8月） ドイツ　IFO企業景況指数（9月）	**27** 日本　日銀金融政策決定会合議事要旨（7月28～29日開催分） 日本　企業向けサービス価格（8月） 米国　S&P/ケース・シラー住宅価格（7月） 米国　消費者信頼感指数（9月）	**28** 米国　耐久財受注（8月）	**29** 日本　商業販売統計（8月） 米国　GDP(3次速報、4～6月期）	**30** 日本　金融政策決定会合による主な意見（9月20～21日開催分） 日本　労働力調査（8月） 日本　家計調査（8月） 日本　全国消費者物価（8月） 日本　東京都区部消費者物価（9月） 日本　鉱工業生産（速報、8月） 日本　住宅着工（8月） 米国　個人所得・消費（8月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（確報、9月） ユーロ圏　失業率（8月） ユーロ圏　消費者物価（速報、9月）	

（注）*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
（資料）ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2016年7月28日	FOMCを終えて（7月26～27日開催分）
2016年7月26日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2016 年6月分）
2016年7月22日	週末版（ECB理事会を終えて～「嵐」の前の静けさ～）
2016年7月21日	日銀金融政策決定会合プレビュー（7月28～29日開催分）
2016年7月20日	明らかになり始めたBrexitの下押し圧力について
2016年7月19日	「空気を読まない」EU政策当局への危機感
2016年7月15日	週末版(ECB理事会プレビュー～現状維持も「次の一手」は近い～）
2016年7月14日	危う過ぎるヘリマネ議論～円の信認を「叩き壊す」政策～
2016年7月13日	ドル/円相場、急騰の解釈～「木」ではなく「森」を見るべき～
2016年7月11日	米6月雇用統計～いよいよ諦観が漂い始めた米利上げ～
2016年7月8日	週末版(円相場の基礎的需給環境について～頭打ちの経常黒字～）
2016年7月7日	FOMC議事要旨～崩れ始めるファイティングポーズ～
2016年7月4日	経験則に学ぶドル/円相場の「波」～簡単には終わらず～
2016年7月1日	週末版（BrexitにEUの責任はないのか？～ユーロ圏を「監獄」にしないために～）
2016年6月27日	Brexit後のリスク要因再点検～トランプリスクとFRB緩和リスク～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2016 年5月分）
2016年6月24日	週末版
2016年6月23日	TLTROⅡプレビュー～6月23日、もう1つの論点～
2016年6月21日	英国のEU離脱（Brexit）とユーロ相場見通し
2016年6月20日	英議員殺害で思い返されるアンナ・リンド事件
2016年6月17日	週末版（日銀金融政策決定会合を終えて～「No」と言う勇気と奇襲の「ツケ」～）
2016年6月16日	FOMCを終えて～「利上げの有無」を超えて～
2016年6月15日	英国のEU離脱（Brexit）を巡るQ&A
2016年6月14日	ドル/円相場、水準感の整理～攻守交代の時～
2016年6月10日	週末版(7月以降、ECBは現状維持を貫けるか～戻らないHICPに苦しめられる公算～）
2016年6月9日	日銀金融政策決定会合プレビュー
2016年6月8日	円相場の基礎的需給環境について
2016年6月7日	イエレンFRB議長講演と米雇用情勢について
2016年6月6日	米5月雇用統計～もはや正常化以前の問題か～
2016年6月3日	週末版(ECB理事会を終えて～2周年を迎えたマイナス金利～）
2016年6月2日	消費増税先送りと「悪い円安」論について
2016年6月1日	年内「最後の円安」に備える時か
2016年5月30日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2016 年4月分）
2016年5月27日	週末版(本日のトピック：ECB理事会プレビュー～目玉政策を控えて現状維持～）
2016年5月26日	投機ポジションにおける「ドル買いの正体」
2016年5月25日	米通貨・金融政策の捻じれ～「ドル高の罠」から抜けられず～
2016年5月23日	仙台G7 を終えて～論点変わらず見通しに影響なし～
2016年5月20日	週末版
2016年5月18日	本邦1～3月期GDP～「不都合な結果」とはならず～
2016年5月17日	ECBのバランスシートとユーロ相場の関係などについて
2016年5月16日	消費増税先送り報道と市場への影響などについて
2016年5月13日	週末版(マイナス金利導入から3か月～外的要因に圧倒される状況続く～）
2016年5月12日	円相場の基礎的需給環境について～第1四半期を終えて～
2016年5月11日	伊勢志摩合意に必要なドイツの説得
2016年5月9日	薄れる米雇用統計の影響力～「量」と「質」の捻じれも懸念～
2016年5月6日	週末版(米為替政策報告書と「秩序的（orderly）」について～結局はドル高が辛くなっただけ～）
2016年4月28日	日銀金融政策決定会合～「良い球」を逃した結末は・・・～
	週末版(FOMCを終えて～論点は変わらずドル高懸念～）
2016年4月26日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2016年3月分）
	「原油価格上昇＆円安」をどう考えるべきか？
2016年4月25日	3週間ぶりの111円台を受けて～想定通りの円安～
2016年4月22日	週末版（ECB理事会を終えて～「不都合な真実」を黙殺したドラギ総裁～ ）
2016年4月21日	日銀金融政策決定会合プレビュー～日銀版TLTRO2か～
2016年4月20日	ECB理事会プレビュー～強まる日本化・円化・日銀化～
2016年4月19日	震災と為替～2011年3月を参考にすべきか？～
2016年4月18日	G20を終えて～追加緩和、「やるなら今」か？～
2016年4月15日	週末版(黒田総裁NY講演を受けて思うこと～「最凶の緩和スキーム」にならないために～）
2016年4月14日	ドル高、金利上昇に脆弱な米経済の現状
2016年4月13日	通貨安競争回避で最も分が悪いユーロ圏（≒ドイツ）
2016年4月12日	敢えて探す円安材料と国際的文脈の踏まえ方
2016年4月11日	円高を巡るQ&A～よくある照会の論点整理～
2016年4月8日	週末版
2016年4月7日	FOMC議事要旨（3月15～16日開催分）
2016年4月6日	ドル/円相場、110円割れの読み方
2016年4月5日	深まるユーロ圏のディスインフレとユーロ高懸念
2016年4月4日	QQE3周年と海外の反応～米国講演を踏まえて～
2016年4月1日	週末版
2016年3月28日	日銀、「5分で読めるマイナス金利」に思うこと
2016年3月25日	週末版
2016年3月24日	ユーロ相場、再考～実質金利、PPP、実質実効為替相場～
2016年3月23日	ブリュッセルテロを受けて～目立つ英ポンドの動揺～
2016年3月22日	ユーロ圏経常黒字とユーロ相場の近況について
2016年3月18日	週末版(過去2か月のG3通貨相場から言えること～基軸通貨には逆らえず～）
2016年3月17日	FOMCを終えて～やはり「2回出来れば御の字」の米利上げ～
2016年3月16日	日銀金融政策決定会合について～際立つECBとの対比～
2016年3月15日	TLTRO2に関するQ&A～悔れない、その実力～
2016年3月14日	求められる、市場期待に対して「No」と言う勇気
2016年3月11日	週末版（ECB理事会を終えて～悔やまれる満点回答～）
2016年3月10日	日銀会合プレビュー～「Mr.Kurodaは気にしない」のか？～
2016年3月4日	週末版
2016年3月3日	今年が「円高の年」なら、まだ底は深い～過去30年の経験則～
2016年3月2日	ECB理事会プレビュー～注目すべき論点の整理～
2016年3月1日	上海G20、為替見通しへのインパクトについて
2016年2月26日	週末版(筋が通らない日中に対する通貨安批判～まずはFRBの政策修正が筋～）
2016年2月25日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2016年1月分）
2016年2月24日	英国のEU離脱に係る論点整理
2016年2月22日	中国版プラザ合意へ燻る期待について
2016年2月19日	週末版(ECB理事会議事要旨（1月21日開催分）を受けて～「保険」≒「混乱の種」という皮肉～）
2016年2月16日	マイナス金利で円高は「不幸中の幸い」？
2016年2月12日	週末版(やはり始まった購買力平価への回帰～最終的に報われる為替予測とは～）
2016年2月10日	弱まる「期待への働きかけ」と為替相場の関係
2016年2月9日	円の需給環境の総括と展望～15年国際収支を受けて～
2016年2月8日	米1月雇用統計を受けて～成熟化への不安～